

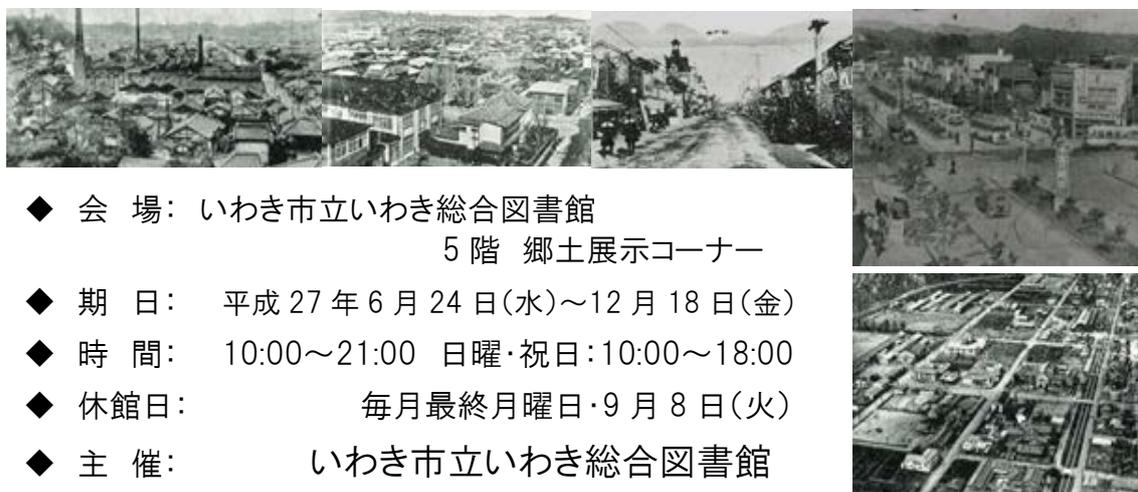
平成27年度 前期常設展示

戦後70年、伝える

いわきの戦災

目次

| | |
|-----------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 日本の戦争の概略 ^{がいりやく} | 2 |
| 戦争と「いわき」略年表 | 7 |
| いわき 戦時下の暮らし | 9 |
| 石炭の増産と朝鮮人労働者 | 11 |
| 漁船徴用 ^{ちょうよう} と漁船被災 | 12 |
| 風船爆弾 | 13 |
| いわきの戦災史 | 14 |
| 関連（参考）資料 | 15 |



- ◆ 会場： いわき市立いわき総合図書館
5階 郷土展示コーナー
- ◆ 期日： 平成27年6月24日(水)～12月18日(金)
- ◆ 時間： 10:00～21:00 日曜・祝日：10:00～18:00
- ◆ 休館日： 毎月最終月曜日・9月8日(火)
- ◆ 主催： いわき市立いわき総合図書館

はじめに

今年、太平洋戦争（第二次世界大戦）の終結から、70年になります。そして、現在では、戦争を直接経験した人たちの数も少なくなり、戦争の体験や記憶を継承することが難しくなっています。

平和を守り、戦争をくり返さないためには、戦争の実情を知り、戦争の記憶を伝えていくことが、重要であるといわれています。

戦時中には、いわきからも多くの人々が、戦地に赴きました。そして、戦地で亡くなったり、負傷した人がたくさんいました。

また、1945年（昭和20）の終戦間際には、いわきでも、工場や市街地、漁船など、各地区で激しい攻撃を受け、多数の方々が犠牲となりました。

今回の展示では、当館所蔵の資料から、いわき市に関連した戦争の様子や戦争の爪痕を残す資料、戦時下での人々の暮らしぶりなどを伝える資料を紹介いたします。

今回の展示会を平和の大切さと戦争の悲惨さ、残酷さなど、戦争と平和についてあらためて考える機会としていただきたいと思いますと考えております。

いわき市立いわき総合図書館長 夏井芳徳



戦前の平市本町通り

平成27年度 前期常設展示

戦後70年、伝える いわきの戦災

発行 平成27年6月24日(水)
いわき市立いわき総合図書館

いわき市平字田町120番地
〒970-8026
☎ 0246-22-5552

日本の戦争(1931~1945年)の概略

満州事変

1931年(昭和6)



満州事変で瀋陽に入る日本軍
(Wikipedia)

1931年(昭和6)、満州に進出していた日本軍(関東軍)は、奉天郊外の鉄道を爆破(柳条湖事件)、それを中国軍の行為だとして中国東北部へ攻め入りました。

翌年、清朝最後の皇帝・溥儀をむかえて「満州国」建国を宣言しました。これが世界中から非難されて、日本は国際連盟を脱退しました。

日中戦争

1937~1945年(昭和12~20)

1937年(昭和12)、北京郊外で日本と中国の軍事衝突(盧溝橋事件)をきっかけに、華北や内蒙古を支配下におさめ、中国との全面戦争になりました。中国では毛沢東(中国共産党)と蒋介石(中国国民党)が協力し、中国と日本軍の戦いは、泥沼化していきました。



盧溝橋、宛平県城および周辺の航空写真
(Wikipedia)

第二次世界大戦 太平洋戦争

1939~1945年(昭和14~20)

1941~1945年(昭和16~20)



1943年のカイロ会談にて、アジア・太平洋戦域の連合国各国指導者。左から、蒋介石、フランクリン・ルーズベルト、ウィンストン・チャーチル
(Wikipedia)

日本の中国進出と日中戦争の長期化は、欧米諸国と日本の関係を悪化させました。中国から撤退しない日本に対し、アメリカは航空機用燃料や鉄鋼資源の輸出を制限しました。

1939年(昭和14)9月、ドイツ軍によるポーランド侵攻によってヨーロッパで第二次世界大戦が始まると、1940年(昭和15)、日本はドイツ・イタリアと日独伊三国軍事同盟を結び参戦しました。そして、東南アジア諸国の権益をめぐり、1941年(昭和16)12月8日、日本海軍がアメリカ・ハワイ島の真珠湾(アメリカの軍事拠点)を攻撃、日本陸軍はマレー半島に上陸し、イギリス軍を攻撃して、太平洋戦争を始めました。

戦火は全世界に拡大して60近くの国々が参戦し、ドイツ、日本、イタリアの三国同盟を中心とする枢軸国と、イギリス、フランス、ソビエト、アメリカ、中華民国などの連合国側に分かれて戦いました。

国をあげての戦争



大政翼賛会の発足(Wikipedia)

日本政府は、太平洋戦争以前の日中戦争のころから、戦時体制を整えていました。1938年(昭和13)には国家総動員法こっかそうどういんぽうが制定され、政府は人的・物的資源を統制し運用しました。また国民徴用令ちやうようれいや統制令とうせいれいが出され、物資の生産は軍需関係が中心となりました。すでに米やみそ、しょうゆもめん、木綿はいきゆうなどは配給



大政翼賛会本部
1940年11月30日に東京会館の建物を臨時徴用し、1942年1月25日まで本部を置いた。(Wikipedia)

制になっていましたが、生活必需品の不足は人々の暮らしに深刻な問題となっていました。

1940年(昭和15)、国民を戦争に協力させるための全国組織、大政翼賛会たいせいよくさんかいが設立され、町内会ちやうないかいや隣組となりぐみは、配給、防空・防火演習、金属回収、出征兵士の見送りなどの役割にんを担い、国をあげて戦争へ進んでいきました。

戦時中の暮らし

戦争が長引くにつれて、国民への統制が強まりました。1925年(大正14)に制定された治安維持法ちあんいじほうは、その取締りの範囲を広げて、新聞や出版の検閲を徹底させました。情報統制によって、戦争の状況を知らせるものは、日本の陸海軍を指揮・管理した機関(大本営)の大本営発表だいほんえいだけでした。

また、「召集令状(赤紙とよばれた)」によって多くの成年男子が出征して、労働力不足になりました。中学生以上の男女に「勤労働員きんろうどういん」、文系の大学生たちの「学徒出陣がくとしゅつじん」がはじまりました。まちには節約や戦意高揚のためのポスターがあふれ、子ども向け雑誌は戦争一色になりました。

1944年(昭和19)には、各地で空襲くうしゅうが激しくなり、都市の子供たちを農村に移動させる「学童疎開がくどうそかい」が行われました。社会からは自由が奪われ、食糧や物資の不足は苦しい生活を極限に追い込み、戦争終結を望む気分が漂ただよいはじめました。



大本営陸軍部による発表
(1942年1月3日) (Wikipedia)

B29 爆撃機による空襲

1942(昭和17)年4月18日、アメリカのB29^{ぼくげきき}爆撃機16機による、初の東京空襲がありました。アメリカは、日本軍が占領していたマリアナ諸島のサイパン島、テナアン島、グアム島を^{だっかい}奪回すると、約1,000機の大型爆撃機B29を配備しました。

1944年(昭和19)11月には、B29



1945年8月1日に米軍が撒いた伝単。8月1日夜に爆撃する都市を列挙している。(Wikipedia)
伝単：戦時において相手国民、兵士の戦意喪失を目的として配布する宣伝謀略用の印刷物(ピラ)。



硫黄島に緊急着陸したB-29 (1945年5月4日撮影)
(Wikipedia)

による東京空襲から、川崎、横浜、名古屋、大阪、神戸の大都市、やがて中小都市も空襲されました。その攻撃目標は軍需工場や軍事関連施設でしたが、地域一帯を爆撃する無差別爆撃に移っていききました。

沖 縄 戦

アメリカ軍の上陸が近いといわれていた沖縄では、1944年(昭和19)8月から学童疎開がはじまりました。沖縄から本土へ向かう子どもたちを乗せた「対馬丸」が、アメリカ軍潜水艦の攻撃で沈没しました。子どもたちを含む約1,500人が亡くなりました。

同年10月には、那覇^{なは}の大空襲で町の大半が焼け、約1,200人が犠牲になりました。

1945年(昭和20)3月、アメリカ軍が約55万の兵員、1,500隻の艦船を率いて慶良間列島に上陸しました。アメリカ軍を恐れた住民700人が集団自決しました。4月1日、アメリカ軍が沖縄本島に上陸を開始しました。住民の生活の場で激戦が繰り返され、6月23日、戦闘が終了しました。

この沖縄戦は、太平洋戦争中もっとも悲惨な地上戦であったといわれ、犠牲者数は軍人など約9万人、当時の沖縄県民^{けんみん}の約4分の1にあたる住民、約13万人とされています。



昭和20年4月13日上陸中のアメリカ軍 (Wikipedia)

原爆投下

広島



広島に投下された原子爆弾
(リトルボーイ)(Wikipedia)



爆心地近くの原爆ドームの2010年の様子
(Wikipedia)

アメリカ軍のB29「エノラ・ゲイ」が、1945年(昭和20)8月6日午前8時15分、広島上空から原爆投下。ウラン型原爆(通称:リトル・ボー

イ)が広島市中区相生橋上空約600m付近で爆発しました。

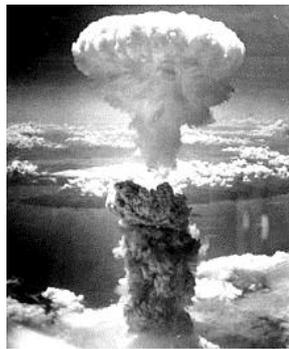
爆発直後に直径約280mの火球ができ、その表面温度は5,000℃になり、火球の下にいた人たちは一瞬にして蒸発したり、黒こげになったりしました。爆心地から直径2km内はすべて燃え上がり、爆風によって建物は破壊され、人々が吹きとばされました。

この年の12月までに約14万人が亡くなり、2013年(平成25)までに約28万人が亡くなったとされています。

長崎



長崎に投下された原子爆弾
(ファットマン)(Wikipedia)



長崎に投下された原子爆弾のキノコ雲 1945年8月9日
(Wikipedia)



平和祈念像(長崎平和公園)
(Wikipedia)

アメリカ軍のB29「ボックス・カー」が、広島への原爆投下から3日後の8月9日午前11時2分、長崎上空約8,800mから原爆投下しました。プルトニウム型原爆(通称:ファットマン)が長崎市松山町上空約500mで爆発し、高熱の火球ができました。この被爆によって12月までに約7万人、その後5年以内に亡くなった人を含めると約14万人が犠牲になりました。

日本の終戦

1943年(昭和 18)9月にイタリア、1945年(昭和 20)5月にはドイツが降伏しました。連合国側は7月26日、「ポツダム宣言」を発表して日本に無条件降伏をせよりましたが、日本は「宣言を黙殺する」と発表しました。8月8日には、ソ連が日本に宣戦布告し、満州や朝鮮が攻め入れられ、北方領土も占領されました。

8月14日、政府は「御前会議(天皇が同席して行われる会議)」で「ポツダム宣言受託(じゆたく)を決定しました。翌15日、昭和天皇はラジオ放送(ぎょくおんほうそう)を通じて、国民に終戦(敗戦)を伝えました。

60近くの国々が参戦した第二次世界大戦での死者は5,000万人以上、軍人よりも民間人の犠牲者が多い戦争でした。アジア・太平洋全域では1,900万人以上が犠牲になったと推定されています。日本人の犠牲者は約310万人(軍人230万人、民間人80万人、朝鮮や台湾の人も含む)といわれています。

日本では8月15日を終戦記念日としていますが、日本が対連合国防伏文書(こうふく)に調印した9月2日が国際法上での終戦の日です。



1945年9月2日、USSミズーリ艦上にて日本の降伏文書に署名する重光葵外務大臣 (Wikipedia)

占領された日本

ポツダム宣言に基づいて、マッカーサー元帥(げんすい)を最高司令官とした、連合国軍最高司令官総司令部(General Headquarters, 通称GHQ)が置かれました。GHQは日本政府を通して、日本の占領政策(じっし)を実施する間接占領の形をとりました。

その基本方針は、非軍事化・民主化を進めることで、戦争犯罪人(戦犯)が逮捕され、東京裁判が開かれました。また、日本政府に対して、1)、秘密警察(けいさつ)の廃止 2)、労働組合(ろうどうくわい)の結成奨励 3)、婦人の解放 4)、教育の自由化 5)、経済の民主化など5つの改革を命じました。

1951年(昭和 26)9月8日、第二次世界大戦の交戦国間で「サンフランシスコ講和条約」が結ばれました。アメリカと日本は、ソ連などの東側の国々を除き、西側諸国と結んだ「単独講和」を選びました。そのおもな内容は、日本は主権を回復し独立するが、外国軍の駐留(ちゅうりゅう)を認める、各国は日本に賠償(ばいしょう)を求めない、沖縄(おがさわら)や小笠原などは引き続きアメリカの支配下におかれる、などでした。GHQは1952年(昭和 27)に廃止されました。



接收された第一生命館
1950年頃のGHQ(連合国軍最高司令官総司令部) (Wikipedia)

戦争と「いわきの戦災」 略年表

| 西暦 | 元号 | 月 | 事項 |
|----------------|------|-----|---|
| 満州事変始まる | | | |
| 1931 | 昭和6 | 9月 | 日本の関東軍が柳条湖で南満州鉄道を爆破、「中国軍が爆破した」として攻撃、満州事変が始まる |
| 1932 | 7 | 3月 | 関東軍が「満州国」を建国 |
| | | 5月 | 5・15事件、海軍将校らが犬養毅首相らを殺害 以降、政党内閣が途絶える |
| 1933 | 8 | 3月 | 日本が「国際連盟」から脱退する |
| 1936 | 11 | 2月 | 2・26事件、皇道派青年将校らがクーデター、斎藤実内大臣、高橋是清蔵相らを殺害し永田町を占拠する |
| 日中戦争へ | | | |
| 1937 | 昭和12 | 7月 | 北京郊外の盧溝橋で日中両軍が衝突し、全面戦争となる |
| | | 12月 | 日本軍が南京占領し、捕虜・市民を虐殺 |
| 1938 | 13 | 4月 | 「国家総動員法」が公布される |
| 1939 | 14 | 5月 | ノモンハン事件、満州国・モンゴル両軍が国境で衝突し、日ソが交戦 |
| | | 9月 | ドイツがポーランドへ侵攻開始する 第2次世界大戦が始まる |
| 1940 | 15 | 9月 | 「日独伊三国同盟」に調印 |
| | | 10月 | 「大政翼賛会」発足 これに先立ち各党が解党する 石城郡開拓団が満州に入植する |
| 1941 | 16 | 4月 | 「日ソ中立条約」に調印 |
| | | 7月 | 日本軍、仏領インドシナ南部に進駐 米国、対日石油輸出を全面禁止へ |
| | | 1月 | 米国が日本に、中国からの撤兵などを求める交渉案(ハル・ノート)を提示する |
| 太平洋戦争開始 | | | |
| 1941 | 昭和16 | 12月 | 日本軍がマレー半島に上陸、ハワイ・真珠湾を奇襲攻撃し、米英などとの太平洋戦争が始まる |
| 1942 | 17 | 3月 | 東京に初の空襲警報 |
| | | 6月 | ミッドウェー海戦、日本は4空母を失い戦局の転機になる |
| 1943 | 18 | 4月 | 23日、四倉沖、龍神丸が潜水艦の砲撃を受け水没、12人死亡 |
| | | 9月 | イタリアが無条件降伏する |
| | | 11月 | 大東亜会議開催 日本の勢力下にある各国首脳を集め、「大東亜を米英の桎梏より解放」と宣言する |
| 1944 | 19 | 7月 | サイパン島の守備隊3万人が全滅する |
| | | 10月 | 神風特攻隊(カミカゼ)、初めて米艦に突撃する |
| | | 11月 | 1日、勿来で風船爆弾放球準備中に炸裂、3人死亡 |
| | | 12月 | 21日、赤井の日曹炭坑空襲、墓地、鉄道線など爆撃される |
| 1945 | 20 | 2月 | 25日、鹿島灘沖で江名漁船30隻が機銃掃射を受け135人死亡、負傷40人 |
| | | | 東京大空襲 |
| | | 3月 | 10日、第1回平空襲(平市南西部)、焼夷弾により585戸被災、16人死亡、5人負傷 26日、好間地区大館の水田に爆弾が投下される |

| 西暦 | 元号 | 月 | 事項 |
|------------------------|----------|---|--|
| 1945 | 昭和 20 | 4月 | 米軍、沖縄本島に上陸 6月23日に日本軍の組織的抵抗が終わる |
| | | | 12日、郡山空襲 小名浜出身者が1人死亡する |
| | | 5月 | ドイツが無条件降伏する |
| | | 6月 | 22日、小川地区銃爆撃 小川駅前に250kg爆弾投下、小玉小学校銃撃1人負傷 |
| | | | 米英中が日本の無条件降伏を求めるポツダム宣言を提示する |
| | | 7月 | 7日、塩屋崎沖で江名漁船が機銃掃射を受け分損 1人死亡、1人負傷する |
| | | | 10日、宮城県唐桑沖で江名漁船が機銃掃射を受けて沈没し、3人が死亡する |
| | | | 13日、平空襲 米軍第58航空団1機により焼夷弾36発が投下される |
| | | | 26日、第2回平空襲(平一小)、パンプキン型爆弾1,517戸被災、3人死亡、53人負傷 |
| | | | 28日、第3回平空襲(平市中・南部)、B29が3機、焼夷弾81発を投下し、188戸被災、3人死亡、6人負傷 恵日寺(大野村)、焼夷弾により寺全焼 他に6戸被災、2人死亡、2人負傷 内郷小島地区に焼夷弾、8戸50人が被災 内郷駅周辺は、機銃掃射で1人負傷 |
| | | | 8月 |
| | | 8日、ソ連が対日に参戦する | |
| | | 9日、米国が長崎に原爆を投下する | |
| | | 9・10日、久之浜地区機銃掃射により2人死亡、3人負傷する | |
| | | 9・10・13日、日本水素小名浜工場、東亜商会爆撃を受ける 日本水素では10日、3人死亡 東亜商会は屋根貫通(不発) | |
| | | 10日、川前地区爆撃を受ける 1人死亡、4人負傷、鉄橋破損 高久、藤間地区が爆撃を受け、高久小児科1人が負傷、 富士飛行場病院の看護師2人が死亡する | |
| | | 11日、小川地区(柴原、水貫、高萩地内)山林や水田に爆弾投下される | |
| | | 13日、錦町大島に爆弾投下され、1戸5人被災する 呉羽化学工場(錦町)、機銃掃射により煙突破損する 植田駅、機銃掃射を受け1人負傷する 久之浜駅、機銃掃射により、3人死亡 | |
| | | 14日、ポツダム宣言を受諾し、降伏することを決定する | |
| 15日、天皇、戦争終結を放送する(玉音放送) | | | |
| 占領統治の始まり | | | |
| 1945 | 昭和 20 | 8月 | 30日、占領統治にあたる連合軍最高司令官・マッカーサー元帥が厚木飛行場へ到着する |
| | | 9月 | 米艦ミズーリ号で降伏文書に調印する |
| 1946 | 21 | 1月 | 天皇、自らの神格を否定する年頭詔書(人間宣言) |
| | | 11月 | 日本国憲法公布、翌年5月3日に施行される |
| 1948 | 23 | 11月 | 極東国際軍事裁判(東京裁判)が終わる |
| 1949 | 24 | 6月 | 平事件 下山・三鷹・松川事件が起きる |
| 1950 | 25 | 6月 | 朝鮮戦争が始まる |
| | | 8月 | 自衛隊の前身となる「警察予備隊」を設置する |
| 1951 | 26 | 9月 | サンフランシスコ講和条約と日米安全保障条約に調印する |
| 1952 | 27 | 4月 | 講和条約発効、沖縄、奄美、小笠原を除き、日本が独立を回復する |

いわき 戦時下の暮らし

郷土部隊

1937年（昭和12）の日華事変から日中戦争、さらに1941年（昭和16）の日本軍のハワイ島真珠湾とマレー半島への奇襲によって、戦線は太平洋へと拡大しましたが、日本軍はすでに日中戦争勃発時から戦力に不足をきたし、臨時編成の師団が大陸の戦線へ送りこまれていました。

召集令状によって福島県内から徴兵された「郷土部隊」は、会津若松を師団の編成地として、中国、ガダルカナル、ビルマなどへ派遣されました。いわき市内からの出征者数は2万6,133人、戦病死者は8,500人余といわれています。

銃後の暮らし

日中戦争に入ると、銃後（直接戦闘に加わらない一般の人びと）の人々の暮らしにも窮屈さが増してきました。戦争の拡大とともに、追いつかない物資生産と不足のために儉約と耐乏が強要されました。国債の割り当て、献金、貴金属の回収などが行われ、いわきでも寺の梵鐘や、城山の時鐘、街道に残っていた松並木の多くを失いました。

1942年（昭和17）からは、衣料品の切符制が実施され、主要な物資は配給制となり、物資不足によって闇価格が横行しました。同年11月27日の新聞、「大東亜戦争一周年・国民決意の標語入選発表」の記事には、「頑張れ！敵も必死だ」（福島県石城郡内郷町）、「欲しがりません勝つまでは」（東京市麻布区）など10点が選ばれました。

女性たちは、戦争遂行のための隣組行事に駆り出されました。そして、召集兵士の壮行、戦死者遺骨の出迎え、千人針依頼など「国防婦人会」として奉仕しました。



昭和17年11月27日朝日新聞「国民決意の標語」入選発表の記事

国民学校

学校は、1941年(昭和16)、小学校が「国民学校」と改称されました。それまでの「尋常小学校」を「国民学校初等科」(修業6年)、と「高等小学校」を「国民学校高等科」(修業2年)に改組されました。体育の授業はすべて軍隊式に改められ、英語などは敵性用語であるとして禁止されました。

戦争末期になると、子どもたちも農作業や農家への、^{きんろうほうし}勤労奉仕が行われました。校庭には稗^{ひえ}を植えたり、豆やサツマイモなどがつくられました。これは、食糧難が続いた終戦直後まで続けられました。

学徒動員

1943年(昭和18)に出された「^{がくと}学徒動員令」によって、国民学校の高等科や中学校の生徒は、工場や炭鉱に動員されました。磐城中学校では、5年生が常磐炭鉱、4年生は日立製作所^{たが}多賀工場、3年生は海軍航空隊施設部隊・郡山飛行場に動員されました。そして、繰上げ卒業や授業の空白が続きました。

学童疎開

東京への空襲に備えて、中野区(東京都)などから湯本、植田、大野地区などへの^{がくどうそかい}学童疎開がはじまりました。やがて、B29の^{しょういだん}焼夷弾攻撃は全国におよび、空襲警報は日常的となり、^{とうかかんせい}厳しい灯火管制がしかれました。1945年(昭和20)3月からは、平の市街地や小名浜の日本^{にほん}水素(現日本化成)、^{にしき}錦の^{くれはがく}呉羽化学などが空襲をうけました。



東京中野区から疎開してきた当時の子どもたちとの交流が続いている常磐湯本町の「松柏館」。



「復元の譜」碑(左上)と「平空襲殉職碑」(右上)
平一小(揚土庭園)

旧平市は、昭和20年3月10日と、平一小を中心として旧平全市におよぶ7月26日、同28日の3回、大規模な空襲を受けました。

石炭の増産と朝鮮人労働者

第一次世界大戦(1914-1918)直後、1919年(大正8)の常磐炭田の出炭量は380万トンでしたが、不況で1932年(昭和7)には200万トンまで落ち込みました。その後、日中戦争、第二次世界大戦(1941-1945)へと続く戦争のために、石炭の増産ははかられました。1935年(昭和10)ころのいわきの炭鉱数は、好間・隅田川・戸部・小田・入山・勿来など約50ありました。

1943年(昭和18)には出炭量は382万トンに達し、1944年(昭和19)、政府の石炭鉱業整備要綱によって、磐城炭砒株式会社と入山採炭株式会社が合併し、常磐炭砒株式会社となりました。



軍需生産美術推進隊による産業戦士「坑夫の像」いわき市石炭・化石館



発破作業 昭和17年磐城炭砒
(みろく沢炭砒資料館)

出征による男子の人手不足から、一時は坑

内労働を禁止された女子労働者が坑内に入って働きました。また、朝鮮半島からも労働力不足を補うために、多くの人たちが連行されました。いわき市内では常磐炭砒や古河炭砒、かつて藤間にあった富士飛行機地下工場などに、最高時には7,200人を超える朝鮮人労働者がいました。採炭などに従事し、こうした時代背景の中、過酷な労働環境や処遇によ

って、この地で亡くなった人たちが多数いました。

平長橋の性源寺には「朝鮮人労務犠牲者之碑」が建てられています。湯本町傾城の妙覚寺には、炭鉱で死亡した人たちを供養する「万霊塔」が建てられ、連行された朝鮮の人たちも追悼されています。



「朝鮮人労務犠牲者之碑」性源寺



「万霊塔」妙覚寺(湯本町傾城)

漁船徴用と漁船被災

1937年(昭和12)に日中戦争が起こると、戦争の拡大とあいまって、輸送も拡大され、軍は船舶不足を補うために翌年から漁船ちようようの徴用を始めました。

徴用された漁船と漁民は海上の監視船・輸送船の任務につきましたが、戦局の悪化とともに数多くの犠牲者を出しました。いわきの各浜からも漁船が徴用されました。

太平洋戦争にはいると、徴用された漁船と漁民は、占領地での軍隊の食糧確保と占領地住民への漁業技術指導のために、南洋諸島まで木造漁船で出かけて行きましたが、徴用船の多くは日本へ戻れませんでした。

りゆうじんまるそうなん 龍神丸遭難

戦時中もいわき各浜の漁船は、タンパク資源と軍用品材料の確保のため、危険な海で操業を続けていました。

1943年(昭和18)4月23日、四倉よつくらの「龍神丸」がアメリカ軍潜水艦の砲撃をうけ、船体が沈没して乗組員12人全員が犠牲になりました。「龍神丸」は、横須賀防備船隊の指令により、太平洋上に出没する外国機や外国船の発見とその連絡、鮫を捕獲して軍用油を提供するという任務に従事していましたが、遺体は発見されませんでした。

かしまなだ 鹿島灘事件

1945年(昭和20)2月25日、江名えな漁業会所属の底曳網漁船そこびきあみ30隻は、鮫の大群を追って鹿島灘(茨城県)沖合で操業中に、アメリカ軍戦闘機きじゆうそうしやの機銃掃射を受けました。135人が犠牲となり、そのほか多くの人たちが負傷しました。

出港した30隻(乗組員335人)のうち、無傷だった船はなく、自力で寄港できたのは13隻えいせん、曳船が1隻、そのほかは座礁・漂着・沈没・沈没推定でした。さらに遺体不明者が69人という、いわきの第二次世界大戦の民間人の戦災の中で、最も大きく悲惨なものでした。

戦後には遺族会がつくられ、1969年(昭和44)に戦災者は「準軍属」とされました。



鹿島灘戦没漁船員之副碑(左上)と江名町漁船殉職者供養塔(右上)
江名(真福寺)

風船爆弾

風船爆弾は、第二次世界大戦中、日本からアメリカ本土を直接攻撃しようとした「フ号作戦」として、研究・製造された秘密兵器でした。焼夷弾を搭載した無人の気球（風船爆弾）をジェット気流（偏西風）にのせて、アメリカ本土へ飛ばそうとして、茨城県大津（北茨城市長浜）、千葉県一宮（千葉県一宮町）、福島県勿来（いわき市勿来町）の3か所に基地が設営されました。

1944年(昭和19)11月から翌1945年(昭和20)4月初旬までの約5か月間に、約9,300個が放球されたといわれ、その内、約10%がアメリカ本土へ到達したと考えられています。

風船爆弾は陸軍と海軍、それぞれで研究されて製造されました。陸軍は和紙製気球の風船爆弾、海軍は絹製気球の風船爆弾をつくりました。陸軍の気球には、遠野和紙や田人のコンニャク（こんにゃくのり）が使われました。錦町の工場では海軍の気球がつくられ、女学校の生徒たちもこの仕事に動員されました。翌1945年(昭和20)4月には、気球に入れる川崎方面の水素ガスの生産地が焼かれ、風船爆弾は飛ばせなくなりました。

同年8月15日には陸軍から「フ号作戦」証拠隠滅命令があり、関係書類等を焼却、爆弾や焼夷弾は炭砒の旧鉱や海へ投棄され、「フ号作戦」の関係資料は処分されました。風船爆弾によるアメリカ本土の犠牲者は、作戦が終了していた1945年5月5日、オレゴン州ブライで不発弾に触れたピクニック中の6人（女性1人と子供5人）の死亡が確認されています。



風船爆弾(Wikipedia)



風船爆弾基地図（勿来町関田）

当時、基地近くを通過する常磐線、水戸—平間の上下線は、軍事機密を理由に客車の窓はヨロイ戸を閉めさせられ、車窓から沿線の景色を見ることはできませんでした。

いわきの戦災史

| 年月日 | 被災事項・地区 | 被災内容 |
|----------------------|---------------------|-------------------------------------|
| 1943年(昭和18) 4月23日 | 龍神丸砲撃 (四倉沖) | 四倉漁船「龍神丸」が潜水艦の砲撃で沈没、12人死亡 |
| 1944年(昭和19) 11月1日 | 風船爆弾炸裂 (勿来) | 風船爆弾放球の準備中に炸裂、死者3人 |
| 12月21日 | 赤井日曹炭砒空襲 | B29の空襲、日曹炭砒、墓地、鉄道線を爆撃 |
| 1945年(昭和20) 2月25日 | 江名漁船銃撃 (鹿島灘沖) | 江名漁船30隻、機銃掃射を受け135人死亡、負傷40人 |
| 2月 | 赤井地区機銃掃射 | 線路沿いに小川郷から来襲、寺、小学校、赤井駅を射ち、汽車の降者2人死傷 |
| 3月10日 | 第1回平空襲 (平市南西部) | 焼夷弾により585戸被災、16人死亡、5人負傷 |
| 3月26日 | 好間地区爆撃 (大館) | 大館の水田に爆弾投下 |
| 4月12日 | 郡山空襲 | 小名浜出身者1人死亡 |
| 6月22日 | 小川地区銃爆撃 | 小川駅前に250kg爆弾投下、小玉小銃撃1人負傷 |
| 7月7日 | 江名漁船銃撃 (塩屋埼沖) | 江名漁船「良徳丸」が機銃掃射を受け分損、1人死亡、1人負傷 |
| 7月10日 | 江名漁船銃撃 (宮城県唐桑沖) | 江名漁船、機銃掃射を受け沈没、3人死亡 |
| 7月13日 | 平空襲 | 米軍第58航空団1機により焼夷弾36発投下 |
| 7月26日 | 第2回平空襲 (平一小) | パンプキン型爆弾により1,517戸被災、3人死亡、53人負傷 |
| 7月28日 | 第3回平空襲 (平市中・南部) | B29、3機により焼夷弾81発投下、188戸被災、3人死亡、6人負傷 |
| | 恵日寺爆撃 (大野村) | 焼夷弾により寺が全焼し宝物を焼失、他に6戸被災、2人死亡、2人負傷 |
| | 内郷小島地区爆撃 | 焼夷弾により8戸50人被災 |
| | 内郷駅周辺銃撃 | 機銃掃射により1人負傷 |
| 8月9、10日 | 久之浜地区銃撃 | 機銃掃射により2人死亡、3人負傷 |
| 8月9、10、13日 | 日本水素小名浜工場 東亜商会爆撃 | 日本水素では3人死亡(10日)、東亜商会の屋根を貫破(不発) |
| 8月10日 | 川前地区爆撃 | 1人死亡、4人負傷、鉄橋を破損 |
| | 高久、藤間地区爆撃 | 高久小児童1人負傷、富士飛行場病院看護師2人死亡 |
| 8月11日 | 小川地区爆撃 | 柴原、水貫、高萩地内山林水田爆弾投下 |
| 8月13日 | 錦地区爆撃 | 錦町大島に爆弾投下、1戸5人被災 |
| | 呉羽化学工場銃撃 (錦町) | 機銃掃射により煙突を破損 |
| | 植田駅銃撃 | 機銃掃射により1人負傷 |
| | 久之浜駅銃撃 | 機銃掃射により3人死亡 |
| 日時不明 | 常磐地区山林爆撃 | 平空襲時に下船尾町蛇並、湯ノ岳山林へ焼夷弾を投下 |

参考資料:『いわき市史 第4巻 近代Ⅱ』

◇◇◇ 関連(参考)資料 ◇◇◇

- ◆ 『池上彰の現代史授業 21世紀を生きる若い人たちへ』
昭和編① 昭和二十年代 戦争と復興 池上彰著 ミネルヴァ書房 2014年 (児 210/イ)
- ◆ 『地図で見る日本の歴史 8 昭和時代・平成』 竹内誠監修 フレーベル館 2001年 (児 210/チ/8)
- ◆ 『新しいいわきの歴史』 いわき地域学会出版部 1992年 (K/210.1/1/ア)
- ◆ 『いわき市史 第4巻 近代Ⅱ』 いわき市史編さん委員会 いわき市 1994年 (K/210.1/1/イ)
- ◆ 『いわき市史 第10巻 近代資料Ⅰ(下)』
いわき市史編さん委員会 いわき市 1985年 (K/210.1/1/イ)
- ◆ 『写真で見るいわきの歴史 懐郷無限』 斎藤伊知郎著 ヤマニ書房 1978年 (K/210.6/1/サ)
- ◆ 『近代福島と戦争 歴春ふくしま文庫 69』 大内寛隆著 歴史春秋出版 2001年 (K210.7/0/オ)
- ◆ 『ふくしま 戦争と人間』 全8巻 福島民友新聞社 1982年 (K/210.7/0/フ)
- ◆ 『福島の学徒勤労働員の全て』 福島の学徒勤労働員を記録する会編集・発行
2010年 (K/210.7/0/フ)
- ◆ 『風船爆弾覚書』 小豆畑裕繁著・発行 2000年 (K/210.7/1/ア)
- ◆ 『いわきの戦災』 (『6号線』第二十二号 別冊) 伊東達也著 6号線社 1985年 (K/210.7/1/イ)
- ◆ 『写真アルバム いわきの昭和』 佐藤孝徳監修 いき出版 2009年 (K/210.7/1/イ)
- ◆ 『戦争と勿来』 サークル「平和を語る集い」編集・発行 1985年 (K/210.7/1/セ)
- ◆ 『フ号作戦と勿来—風船爆弾の記憶—』
酒主真希編 いわき市立勿来文学歴史館 2005年 (K/210.7/1/ナ)
- ◆ 『日本の空襲 第一巻 北海道・東北』 日本の空襲編集委員会 三省堂 2003年 (K/210.7/1/ニ)
- ◆ 『松柏の絆—わたしたちの出会いと想い—』 松柏会編集・発行 1985年 (K/372/シ)
- ◆ 『鎮魂譜—平—小被爆の記録と証言—』 鎮魂譜刊行委員会編集・発行 1985年 (K/376/チ)
- ◆ 『かぼちゃと防空ずきん』 吉田隆治編 いわき地域学会出版部 1994年 (K/391/カ)
『市民が書いた いわきの戦争の記録 戦中・戦後を中心に』 上同一内容 2010年 (K/391/シ)
- ◆ 『戦災復興誌 第5巻 都市編Ⅱ』 建設省 大空社 1991年 (K/518/セ/5)
- ◆ 『江名漁業史』 江名町漁業協同組合編集・発行 1962年 (K/662/エ)

